

令和3年度 第2回八尾市公共下水道事業経営審議会議事概要

[開催日] 令和4年3月18日(金)

(1) 八尾市公共下水道事業経営審議会会長・副会長の選任

(2) 令和4年度当初予算について

○事務局(概要説明)

- ・令和4年度の当初予算について報告。
- ・令和3年度当初予算や投資財政計画との比較について報告。

○委員

- ・整備人口が下がっているのに普及率が上がっている理由は。

○事務局

- ・行政人口の減少が整備人口の減少を上回ってきたため。

○委員

- ・企業債残高が投資財政計画と比較して減っているのは、多めに起債を償還しているからか。
- ・投資財政計画と比べて利益はマイナスになっているのに、なぜ起債借入額が少なくなったのか。

○事務局

- ・企業債償還は予定どおりだが、新規借入が計画より下回っているため、企業債残高が計画より減っている。
- ・資本費平準化債を当初の計画より増やす見直しを行い、また、公共下水道に係る建設改良費も事業費を抑えて収支のバランスをとっている。

○委員

- ・資本的支出にある管渠費について、予算では昨年度より20%減っている理由は。

○事務局

- ・新やお改革プランと、投資財政計画の見直しの影響による減となっている。

○委員

- ・計画的に改築更新を行うとともに、汚水処理100%を目指すように要望する。

○委員

- ・収益的収支の下水道使用料で、有収水量が0.4%減に対して下水道使用料は0.2%減としているが、どのように予測しているのか。

○事務局

- ・有収水量は一般家庭層が増加、事業所等が減少傾向にあり、この傾向が一定続くと見込んでいる。
- ・山手については、居住状況を踏まえて整備区域を減少させることも考えながら事業を進めていく。

(3) 下水道使用料について

○事務局

- ・類似団体との比較、調定件数の推移、業種別の水量推移、調定水量の内訳により八尾市の状況を説明。

○委員

- ・大口使用者の使用料の減少は、企業努力や設備投資の影響もあるのではないかと。

○委員

- ・家庭利用においても感染症予防のために各家庭での水量は伸びているが、いずれ節水に対する意識が

戻ってきて水道利用が落ち込む可能性はあるかもしれない。

○委員

- ・50 m³以上の調定が25%以上あり、その影響を見ておかないといけないのではないか。例えば、ヒアリングするなど大口利用者の減少の原因などは把握しているのか。

○事務局

- ・昨年度は水量が増えたのに使用料が落ちており、大口利用者の影響は大きく出ている。できる範囲で調査をして状況確認している。

○委員

- ・八尾市の逓増制料金制度は、他市と比較してどうなのか。
- ・水道局と連携して分析をしているのか。
- ・上水道ではない認定水量は、どんな水を利用しているのか。
- ・調定0 m³とは、基本料金だけ徴収しているのか。

○事務局

- ・逓増度については、市によって料金の出し方が異なるので単純比較は難しいが、単純逓増度で見ると八尾市は真ん中よりやや上のあたりである。
- ・水道局とは水量別の分析について情報共有はしている。
- ・上水道以外では、工業用水や地下水があり、事業者側にメーターを付けており、メーターの報告によって汚水認定をしている。
- ・開栓しているが使用していなければ基本料金だけかかる。

○委員

- ・家庭での使用量が増えているのは、在宅時間が伸びたことによる影響が大きい。
- ・大口利用者からの影響を受けやすい料金体系のため、基本料金での収入を見直す必要がある。
- ・大口利用者が事業の撤退などで公営企業会計が回らなくならないよう、経営状況も含めて動向を見ておくべき。
- ・下水道事業を持続させるのに必要な負担をしていただくためには、一般家庭の方にも実態を理解していただく必要がある。

○委員

- ・今後は逓増制も含めて市の施策と合わせてどうするか議論が必要。逓増制はもともと水の使用の抑制のためであったり、一般家庭に必要な水の費用は低く、商売のために使用している費用は多めに負担してもらおうようになっているが、今の時代には合わなくなっている。政策的に安くしていたものは、これだけ衛生的な環境が整っておればもう必要ないのではないか。

○委員

- ・下水道が万博に何か関われないか。

○事務局

- ・大阪府下の取り組みとして、万博のロゴマークを使ったマンホールのふたの設置計画がある。